

「地図豆」の地図を広げて街歩き

15-1 （井澤弥惣兵衛の）見沼通船堀の水風景を歩く（距離約 9km）

【街歩きの概要】

見沼代（みぬまだい）用水は、埼玉・東京の葛西用水路、愛知県の明治用水と並び、日本三大農業用水と称される。そこには、井澤弥惣兵衛によって開削された見沼代用水路のほかに、東西の用水路を結ぶ見沼通船堀がある。これは享保 16 年（1731）に完成した日本最古の閘門式運河である。これらがおりなす水風景を歩く。



見沼代用水東縁一関

地図豆知識：見沼代用水と井澤弥惣兵衛（1654?–1738）

井澤弥惣兵衛は、紀伊那賀郡（現海南市）の豪農の家に生まれ、徳川光貞に見いだされて勘定方となった。その後、紀州藩主徳川吉宗の命を受けて紀ノ川流域の新田開発を手がける。

徳川吉宗が 8 代将軍として江戸城に入り、財政立て直しのために新田開発を奨励するに及んで、吉宗は紀州藩士から幕臣となっていた井澤弥惣兵衛に、見沼代用水の開削及び周辺地域の干拓を命じる。そして井澤は、1728（享保 13）年に、見沼代用水事業に着手する。

見沼代用水の流路は、現在の埼玉県行田市付近の利根川より取水され、東縁代用水路は東京都足立区、西縁代用水路は埼玉県さいたま市南区に至る。

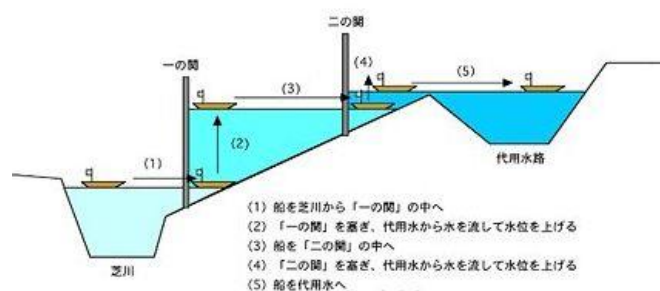
同事業は、利根川から引水する幹線だけでも約 80km、さらに多数の分流路からなる見沼代用水を開削し、同時に周辺沼地を干拓農地化するという壮大な計画であった。用水路の工事に伴う測量は、水盛りと呼ばれる水準測量で行われ、1/600 の傾斜を持つ水路が計画された。

また、計画された水路と旧来河川を立体交差させる場所では「伏越（ふせごし：サイフオンの原理）」、さらに船の自由航行が必要な個所などでは「懸樋（かけひ）」が使用され、「紀州流」と呼ばれる優れた土木工事と測量技術が力を発揮した。

中でも、芝川を挟んで東西の用水路を結ぶ全長が約 1km の物資運送を目的とした見沼通船堀（国指定史跡）は、享保 16 年（1731）に井澤によって作られた日本最古の閘門（こうもん）式運河である。



見沼通船堀



見沼通船堀（閘門式運河）のしくみ

これらの技術は、同時期に紀ノ川小田井用水工事で活躍した、同じ紀州流の大畑才蔵（1642-1720）に通じるものである。

見沼代用水事業後の井澤弥惣兵衛は、中川の開削と小合溜（1729）、多摩川改修、手賀沼の新田開発、木曾三川改修計画などにもあたり、1731（享保 20）年には、美濃国郡代に就任した。

現白岡町の常福寺には分骨を受けた墓が、さいたま市見沼区の万年寺には、井澤弥惣兵衛の用水工事などによって、恩恵を受けた農民諸氏が後に建立した頌徳碑が残されている。

【道順】

武蔵野線東浦和駅→見沼代用水西縁→見沼通船堀公園→見沼通船堀西縁→鈴木家住宅・氷川女体神社→芝川→見沼通船堀東縁→水神社→木曾呂の富士塚→見沼代用水東縁→川口自然公園・東沼神社→見沼自然の家→再び見沼代用水東縁・樹木畑の道→大崎公園→浦和くらしの博物館→同バス停經由浦和駅

【街歩き解説】

①武蔵野線東浦和駅から見沼通船堀公園へ

武蔵野線東浦和駅から始めて、井澤弥惣兵衛の見沼代用水めぐりをスタートする。住宅地を抜けてまもなく、見沼代用水を跨ぐと竹林の広がる見沼通船堀公園がある。見沼通船堀を含めた見沼代用水沿いの一帯は、桜の並木が続く快適な散策道である。



見沼通船堀公園

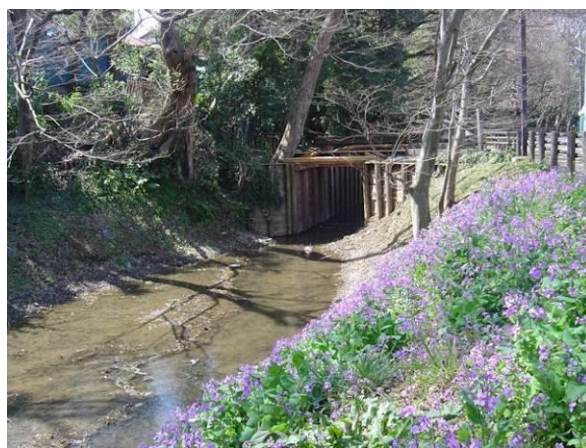


見沼通船堀西縁

②見沼通船堀西縁

見沼通船堀は、比高のある見沼代用水西縁と同東縁、そしてその中間を流れる芝川を横断する物資運送路とするために、井澤弥惣兵衛によって開削された。見沼通船堀は、享保16年（1731）に完成した日本最古の閘門式運河である。すなわちパナマ運河と同形式で、見沼代用水と芝川との3mの水位差を、木製の関（閘門）により水位を調節して船を通すものである。東縁と西縁にそれぞれ2基ずつの閘門を設けて、水位を調節しながら船の航行を容易にしているもので、三箇所の間だけが復元されている。

毎年8月の下旬には、見沼通船堀の通船実演が行われる。東の端には、小さな東橋も復元されている。



見沼代用水西縁一関

③鈴木家住宅

鈴木家は、享保12年（1727）井澤弥惣兵衛に従って見沼干拓事業に高田家とともに参加し、見沼通船堀が完成した享保16年、幕府から差配役を命じられて通船業務にあたったという。その居宅がここに残る。土日のみだが、米蔵・納屋・復元した船などを公開している。



鈴木家住宅

④氷川女体神社

少々気になる名前の氷川女体神社は、三姫命が合祀されて、大宮氷川神社とともに武蔵国一宮といわれてきたという。氷川神社が上氷川、中川神社が中氷川、氷川女体神社が下氷川に一直線に並んでいるらしい。

その氷川神社が「男体宮」、氷川女体が「女体宮」、そして中間の中川神社が「簸王子（ひのおうじ）宮」として、三社で一体となって氷川神社を形つuoっているとか。簸王子社は太己貴命（大国主神）、男体社はその父の素戔鳴命、女体社には母の稲田姫命を祀るという。

⑤芝川と見沼田圃

かつて見沼田圃の辺りは沼地が広がっていたが、享保年間に井澤弥惣兵衛によって見沼代用水東縁と西縁の用水が引かれて干拓が行われ耕作地となった。芝川は、その見沼田圃の排水路として最低所に開削されたものである。同時に、江戸と干拓地を繋ぐ通船路としても用いられた。

新旧の地形図を読むとわかるが、その水田も現在では荒地と化し、首都圏に残された約1,260haという広大な面積を持つ大規模緑地空間でもある。



芝川と見沼田圃

⑥見沼通船堀東縁

見沼通船堀東縁にも閘門があって、散策路が続く。



見沼代用水東縁二関

⑦水神社

水神社は、通船堀が開通した翌年の享保17（1732）年に創建したという。河川輸送にたずさわる人たちが水難防止を祈願して祀ったものだ



水神社

⑧見沼代用水東縁から木曾呂の富士塚

見沼代用水東縁を跨いだ向こうの台地上には、寛政12（1800）年に富士山信仰の富士講にかかわる者の手で築造されたという木曾呂の富士塚がある。高さ5.4mほどの盛土で築かれた塚には胎内回りも用意されている。



木曾呂の富士塚（胎内めぐり）

⑨川口自然公園・東沼神社・見沼自然の家

見沼代用水東縁に沿って進んだ先には、かつての見沼田んぼを思わせる？川口自然公園があり、湿地の中を散策できるように木道が設けられている。さらに北へ進んで東沼神社、見沼自然の家と続く。川口市が管理する古民家があり、自然観察の拠点となっている。



川口自然公園と見沼通船堀東縁



大崎公園手前

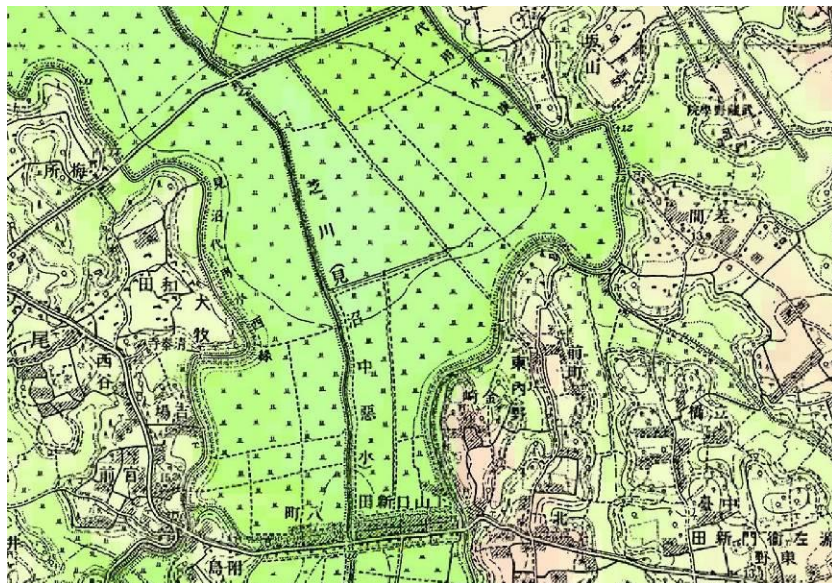
⑩見沼代用水東縁から樹木畑の道を抜けて大崎公園へ

現在、見沼代用水東縁の東の台地には樹木畑が広がる。大正、昭和、平成の地図を広げるとその間の土地利用の変遷がよくわかる。低地は水田から水田、そして荒地・樹木畑へ、台地上は畑地・雑木林から畑地・樹木畑、そして住宅地・樹木畑へと植生が変化した。

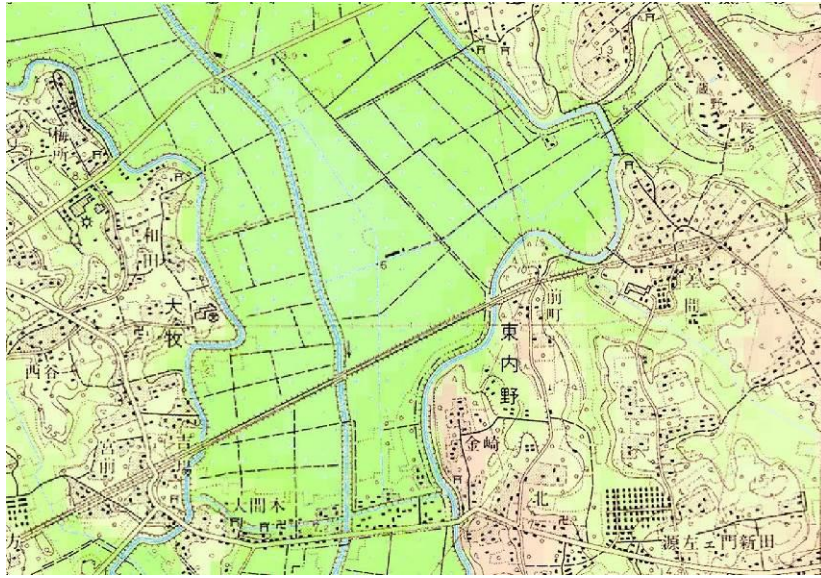
植生の変化は、時代を反映して特徴的だが、宅地化が進む都市周辺にしては、地形の改変は少ないといえる。特に低地は全く手つかずといえるほどだ。

その理由は、宅地としての条件に恵まれた台地上に十分な宅地供給があったから。あるいは、過去に湿地や池沼であった低地は、宅地として全く不適であったからともいえる。

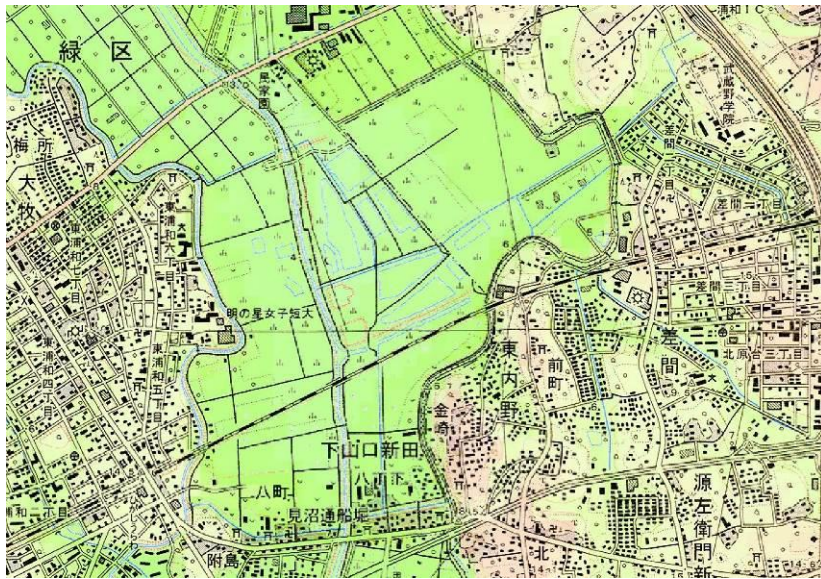
今は樹木畑が卓越している台地上の曲がりくねった小道を抜け、見沼代用水東縁の道を北へ出て池と芝生のある大崎公園、そして温室のある園芸植物園へ向かう。



「浦和」 T13



「浦和」 S42



「浦和」 H15



大崎公園 浦和くらしの博物館民家園

